

# 第15回日本の農業と食を考えるシンポジウム

## 6月3日に開催

### 放射線育種などをテーマに

#### 日本豊受自然農

## 河田昌東氏を講師に

### 由井代表の基調講演に注目

まさに自然農は地球を救うであろう。日本豊受自然農は5月の連休中に憲法を考える講演会など精力的に開催し、歴史を知り、今、世間を賑わす問題を取り上げた講演会、勉強会などを積極的に開き、オンラインで発信している。その日本豊受自然農は6月3日に第15回日本の農業と食を考えるシンポジウムを開催する。

第15回日本の農業と食の問題点を河田昌東氏(東京教育大学理学部)を考えるシンポジウム(東京教育大学理学部)は分子生物学、環境科学、放射線育種、ゲノム編集、遺伝子組み換え作物、大学院博士課程満了、名古屋大学理学部大を招き、発表してもらうことにしている。

同シンポジウムは、これまで自然農の重要性、体験、食の安全安心をそれぞれの専門家を招き活発な議論を行ってきた。由井代表は日本人の体は農業、化学物質に汚染し免疫力を低下させ、いろんな病気に苦しんでいる。それには自然農で生

産した作物を食べることから始めなければ健康を取り戻せないと詳しく述べてきた。

### 桜庭厚生の趣味のスケッチ

#### ヤマボウシ (194)

●風薫る五月を迎え、爽やかな気分を過している。世界保健機構(WHO)は、五日、新型コロナウイルスの感染症拡大を受けて出している「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」の宣言を終了すると発表、三年三カ月振りのことである。我が国も、八日、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけを結核と同等の二類から季節性インフルエンザと同等の五類



に引き下げた。以後、マスク着用など感染対策は自主判断に委ねられ、先行き予断禁物だが、長いこと閉められた窓が開き、爽やかな薫風が吹き込んで来そうなのが嬉しい。●見損なっていたのが、五月一日、いつもの場所へ駆けつけたが、あの白い花は既に無く、新緑が覆っていた。この物語を知って以来、ずっと気に入っている街路樹だ。●件の場所から意気消沈しての帰路、言問橋の北詰めの橋の袂にハナミズキらしい樹を見つけた。奇遇と喜び、近づいてみると日本原産のヤマボウシだった。ハナミズキは別名アメリカヤマボウシという。白い花と思っていたのは花ではなく、苞葉(ほいよう)といい、花芽を包む葉だ。あんなに美しい。あんなに美しい。(文庫工房 主宰)

## 行政機関、制度疲労に 船津準二氏の経歴と岡目八目

### 今、なぜ岡目八目なのか。疑問に答えます。戦後レジームの脱却という節目を背景に戦後農政は大転換期にさしかかっています。3回目となる基本法の見直しや新たな課題である食料安全保障の政策課題に基軸が見えませんが、先人の知恵に学び、困難を乗り越え、この手法で農政の戦後史を精査しました。

静岡県南町、伊豆の国市、それに北海道洞爺湖に農地を持ち、農産物の加工品を次から次と付加価値の高い商品を生み出している。また、世田谷の用賀にあるオーガニックレストランも開店以来、健康にいいと評判を得て、若い女性、若い奥さんたちに人気を得ている。

その日本豊受自然農の第15回日本の農業と食を考えるシンポジウムは放射線育種問題を取り上げるとして、食にどのような影響があるのかを追求していく方針だ。今回、由井代表はどのような基調講演を行うのかも注目される。

参加費は無料、自宅でのオンラインも予定している。参加希望者は第15回日本の農業と食を考えるシンポジウムを検索。

戦後の児童対象の米国型学校給食は、米国農産物の日本の市場化を意図した食料戦略に始まり、1960年の日米安全保障条約で国防と経済政策の両面から日本を支配下に置き、61年の農業基本法の選択的拡大を含め、農産物の自由化を本格化させて、日本のコメ中心の食生活を米欧型のパン食中心に改造するという食文化の改革に踏み込んだのです。平成4年の「新農政」は、長引いた自由化が基本法の農民重視にあるとして決別の意思表示、10年の農政改革大草大綱、11年の食料・農業・農村基本法に挙げ、17年に国民対象の食育基本法、令和元年の日米貿易協定と歩を進め、未だ、道半ばです。主軸となった農産物貿易自由化は、日米の二国間交渉という定番の形態をとり、日本が完全な裸の王様になるまで続きます。戦後レジーム体制は、80年以上にわたって、日本を支配下に、農業、食料政策を通じて国民の生死を握ることにしたのです。

岡目八目の視点で、第一の視点を基軸に、枝葉の各種施策を精査しました。遡上に乗せた各事項です。枠組みの中の模索に、無理があったり、目をつぶったり、守りになったり、行政官の発意で処理する事案が目につき、それらが、被為政者との間で乖離を生み、農政本位の信頼を失くす方向に進んでいきます。

行政官が作成する国会での想定問答集は、問題点はすべて分かっているのです。情報網は驚くばかりです。農政を批判する学者等の元ネタは、行政官です。行政官の情報がないと、単なる「聞くほう」です。歌の文句を引用しますと、わかっちゃいるけど、やれないんだ」という行政の縛りがあるのです。

岡目八目は、これらを理解しながらも、営業しなくても給与が貰える。「官」と官に与えられた「権力」に甘えて、やるべきことをやらない行政体質に苦言を呈することにしたのです。被為政者が、言いたくも言わない「おかしなこと」を代弁することにしたので、昔で云う、いい加減にもっとすっきりして下さいよ、だから給料貰ってるのですか。中央、県、市町村という一連の行政機関が制度疲労に陥っているのです。戦後から続いた戦後レジームの脱皮が叫ばれている時勢です。新しい酒を古い草袋に入れる類のこと、は、もう、いいのではな

戦後レジームの脱出は、国民を味方にするのです。昨今、JAGループは「国産国産」を自給体制強化の標語として運動を展開しています。馬を水際に連れて行っても、無理に飲ませることはできない。道理に従えば、消費側が望む「質と価格」を留意しなければ、消費に繋がりにませぬ。国産国産は生産する側の「片思い」。なかなか相手に通じませぬ。戦後、この方、生産者側の団体と消費者側に足を置く商工団体とは交わることがありませんでした。両団体が生き残りをかけて20年ほど前から、生・消一体の考えが崩壊し、地方創生大臣が仲介して、農商5団体の連携協定が締結されましたが、都道府県段階ではまだ数県に過ぎませぬ。市町村段階では、イベント等で種目による連携の域を出していません。生産者側の所得補償格と消費側の安価価格とが交わることは基本的にありません。生・消一体の理想を現実化するに

食は国民の生命に直結する憲法事項です。食で国民が安寧を得る国政が現実化するれば、岡目八目の苦言もなくなります。これが実現すれば国際モデルになり、世界平和へのリーダー国になります。

食は国民の生命に直結する憲法事項です。食で国民が安寧を得る国政が現実化するれば、岡目八目の苦言もなくなります。これが実現すれば国際モデルになり、世界平和へのリーダー国になります。

食は国民の生命に直結する憲法事項です。食で国民が安寧を得る国政が現実化するれば、岡目八目の苦言もなくなります。これが実現すれば国際モデルになり、世界平和へのリーダー国になります。

食は国民の生命に直結する憲法事項です。食で国民が安寧を得る国政が現実化するれば、岡目八目の苦言もなくなります。これが実現すれば国際モデルになり、世界平和へのリーダー国になります。

食は国民の生命に直結する憲法事項です。食で国民が安寧を得る国政が現実化するれば、岡目八目の苦言もなくなります。これが実現すれば国際モデルになり、世界平和へのリーダー国になります。